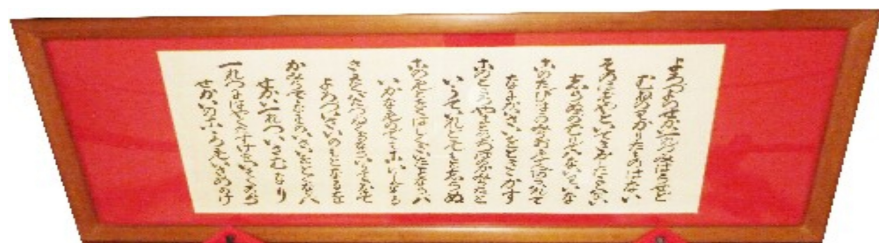


すなお

令和4年3月号

【よろづよ八首】の額修復の報告



教会の参拝場に五十年掲げられていた【よろづよ八首】ですが、経年劣化によりずいぶん傷んできていました。それで当初はパソコンで書かれた文字を読み取り、新たに専用の印刷機で印刷をしていただくという手法も考えましたが、原本を残したいということで表装会社に依頼をして修復をしていただきました。その修復をさせていただく経緯の中でこの【よろづよ八首】の額に込められた先人の思いを聞かせていただくことが出来ました。

この字は当時の教会役員をつとめておられた二宮常五郎さんが墨書して下さり、御供していただいたものです。おちばでその筆跡を見ていただいたら「これは相当練習を重ね書かれたということが分かります」と話され「文字の下揃えが真つ直ぐでしょう。これは簡単なことではないんです」と教えて下さいました。各行に使われている文字は一つ一つみな違うのでそれを十六行ピタリと揃えるのが難しいとのことでした。そのつもりで見れば（なるほど！）です。綺麗な文字で書くことの難しさもさることながら、それに加えて深い思いも込めて書いて下さっていたことが初めて分かりました。

そして、本部の参拝場に掲げられている松村吉太郎先生の文字に酷似しているとの話もあり、これについては想像の域をでませんがおちばへ心を繋ぐという意味においてもその努力をされていたのかもしれないと思いました。私たちの信仰は目に見えるように形に残すことが目的ではありません。時には敢えて形に見えないようにすることを論されています。でもその姿や形からそこに込められた思いを感じることは出来るのではないかと思います。

そして、今回の額の修復において、ただ新しくなって良かったで終わることなく、【よろづよ八首】に込めて下さる親神様の深い思惑を再度思案させていただき、今だからこそ陽気ぐらしへの第一歩を踏み出すことこそが、なお大切なことと思います。

会長

教会ニュース

- ・天理教婦人会第104回総会
日時 4月19日(火) 午前10時30分 場所 本部中庭
※支部(大教会)代表の方のみの参加で行われます。
- ・2月6日故沖野嘉明さんの5年祭を教会の祖霊殿においてつとめさせていただきました。
- ・今年の1月に打ち出しました教会車輛購入御供は3月13日現在501,000円になりました。皆様の心寄せありがとうございます。

すなお (立教185年3月号)

通巻 No.740
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2022.3.16
責任者 二宮英治



どうか、と

椿 信代

3月に入って1週間ほど東京出張へ行ってきました。新しくリニューアルする自社店舗のオープン準備のお手伝いでした。連日の改装作業は普段デスクワークの体には堪えるものがありましたが、なんとか無事にオープンの日を迎えることができて良かったです。

ただ、ちょうどその頃からロシアのウクライナ侵攻が始まりました。出張先の寮でテレビをつけると日を迫うごとに悲惨なニュースが報道されるようになり、私達はお店を素敵にリニューアルしよう、明日はこんな作業をしようという楽しい未来の話をしていますが、この同じ時間にあの地では戦争が起きていて……そんな目の前の現実と映像とのギャップに頭がついていけなくなりそうでした。

未来のことを考えられるのも、仕事で悩めるのも平和であるからこそです。世界が1日も早く平和に戻りますよう、私達は日々神様に祈るしかありません。どうか、と願うばかりです。



常々「感謝」そして保証します！！

野間秀平

今回、立教185年の学生生徒修養会に参加させていただきましたが、非常に素晴らしい仲間と経験を得ることができたと思います。

私は、正直、天理教を毛嫌いしている部分がありました。子供の頃から天理教を学んできましたが、心のどこかで「神様なんて本当にいるのだろうか。じゃあ、何でこんなにも家族に試練を与えるのだろうか。」や、「お供えなんてどうしてしなければならないのだろうか。」と。しかし、この5日間でのお話や、仲間との天理教についての話し合いを通して、今までの考えが恥ずかしいな、もったいないなと感じるようになりました。

この5日間、常々「感謝」という言葉が使われていました。私はこの4月に就職させていただきましたが、この言葉を忘れずに、全ての成ってことに感謝して日々、徳積みをさせていただきたいです。

今、教会にも高校生の子や大学生の子がいるけれど、学生修養会に是非、参加して欲しいです。素晴らしい仲間絶対会えるし、きっと生きていく上での指針を学ぶ良い機会になると思います。保証します！！

「変わる」ことで、楽しめる日々を

葛城分教会長 二宮秀人



この5月29日で、9代葛城分教会長の職を辞することになりました。次は、10代目の会長を息子が継ぐことになります。今から思えば、25歳で会長の職についた若輩者が、わけわからず懸命に勤めさせて頂いてきたように思います。アクシデントは数知れず…。多くの方にご協力頂き、無事勤めることができたことを、誌面ですが厚く御礼申し上げます。

今回、会長を譲るキッカケは、…ある時にフッと浮かんだのです。何だと思われるかも知れませんが、私はこの「心に浮かぶ」というのは、とても大切なことだと思っています。

「ふと浮かぶは神ごころ、後から曇らせて消してしまうのは人間心」と教えて頂いたことがあります。心に浮かばせて下さるのは、神様の思いだと思って今まで通ってきました。そうすれば、タイミングの徳が頂けるのです。出会うべき人とは出会うし、出会わなくていいと神様が思われたら、出会わなくていいのです。そうすると日々を楽に暮らすことができます。今、こうしている時が最高の時間だと思えるからです。持たなくていいものは、持たない方が幸せなのです。

さて、世界中でコロナウイルスがまん延しています。これも神様のなされていることだと思っています。神様の思惑があるのです。今回の件で大切なことは、「変わる」ということです。元のようになるのは何時だろうと思うかもしれませんが、元に戻ってはいけません。進まなければなりません。どう変わるのか？どう進むのか？私たちは、思案をし、悟りを深めねばなりません。そして、「変わる」ことによって必ず楽しいと思える日々になるのです。

私は、いつも以前の自分の考えと、現在がずいぶんと変わっているのに驚きます。自分は「こんなことを考えていたんだ…」と。だから、先が楽しみなのです。次に自分は何を考えるんだろうかと。

これからは、本当の信仰は何なのか、教祖は何を教えられたのか、人間の生き方とは何なのかを追い求めてみたいと思います。そして、出来ることを実行に移していきたいと考えています。

今まで、本当にありがとうございました。